

木質バイオマス熱利用事業計画チェックリスト

項目	確認事項	内容	確認段階		
			FS 調査	基本設計	実施設計
用地	当該用地は木質バイオマスポーラーシステムの導入する用地として妥当か	地形等の安全性、都市計画法等の規制、施設の配置、搬入路を含む燃料の搬入、周辺住民等の状況等	○		
燃料	当該燃料（種類、品質（水分、形状、）に特定した理由は何か	地域内における安定供給の可能性、供給業者の想定、想定供給業者からの運搬経路、導入予定ボイラーとのマッチング等	○	○	
	必要燃料量の算出根拠はどうか	積算根拠	○	○	
焼却灰	灰処理はどのように考えられているか	灰の生産量の見通し、灰の処分方法、灰処理の頻度等	○	○	
熱負荷分析	熱負荷分析の結果とそこから導き出されるボイラーのあり方をどう考えたか	熱負荷分析のやり方、ボイラーと蓄熱タンクの規模の考え方、ピーク負荷とベース負荷の対応の考え方等	○	○	
ボイラー	ボイラーの選択の考え方、根拠はなにか	規模、有圧式・無圧式、運転方式（連続運転・断続運転）、燃料の種類・品質等		○	○
	運用実績はどこまで把握できるようになっているか	熱供給量、2次需要側における供給熱量、電気使用量等			○
	自動化はどこまでされているか	遠隔監視、自動灰出し、煙管清掃等			○
	蓄熱タンクは温度成層制御が可能になっているか	温度成層制御の有無、行えない場合はそれを採用する理由		○	○
	温水の行き還りの温度は何度から何度と想定されているか	15°C以上の差		○	○
	バックアップボイラーはどのようなときに稼働すると想定しているか	バイオマスボイラーの点検時、故障時、ピーク負荷時等		○	○
	煙突の排気ガスの温度は何度が想定されているか	100°C～150°C			○
	断熱の確保について配慮した内容は何か	蓄熱タンクの断熱、配管の断熱、煙突の断熱等			○
サイロ	サイロの大きさはどのように算出しているか	1週間分以上の保管（体積ではなく実際に保管できる量）	○	○	
	燃料の搬入頻度はどう想定しているか	1週間に1回程度 頻度が多い場合、円滑な対応の可能性	○	○	
	搬入しやすいようになっているか	サイロの形態、運搬車の動線	○	○	
	凍結等の起こる可能性はないか	トラブルの可能性と対応		○	○
搬入装置	搬入装置における燃料のブリッジ等のトラブルが起きないか	搬入装置の形状（燃料が円滑に名が得ようになっているか）、起こりうるトラブルの可能性と対応		○	○
建屋	建屋の大きさはどのように算出しているか	算出根拠	○	○	
	建屋内が動きやすい配置になっているか	機器の配置、メンテナンスのし易さ		○	○
メンテナンス	メンテナンス（定期）の内容と頻度はどうなっているか	内容と頻度		○	○
	部品等の調達はどうになっているか	破損し易い部品等、調達先		○	○
	事業者として行わなければならないメンテナンスはどうか（事業者として可能なメンテナンスはどのように考えられているか）	内容と頻度		○	○
	コスト積算の根拠は明確か	積算根拠	○	○	○
	ボイラーのエネルギー効率は何の程度を想定しているか	8割以上	○	○	○

木質バイオマス熱利用事業計画チェックリスト

項目	確認事項	内容	確認段階		
			FS 調査	基本設計	実施設計
コスト 分析・ 事業性 評価	稼働日数、稼働率はどの程度を想定しているか	年間稼働日数、稼働率	○	○	○
	バイオマス代替率はどの程度を想定しているか	8割以上	○	○	○
	電気使用量はどの程度になると想定されているか（電気使用量はこれまでと比較して増加する可能性があるか。）	電気使用量の測定可能性 3%以内	○	○	○
	投資回収期間としてはどの程度を想定しているか	ボイラーの償却期間（15年程度）以内	○	○	○
リスク 管理	施工等のスケジュールが余裕を持ったものになっているか。	スケジュール表		○	○
	メーカーの納期遅延等のリスクに対してはどう考えるべきか	リスクとして想定される内容		○	○